

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【9月10月度の御金言】人身は受けがたくして破れやすし。過去遠々劫より由なき事には失ひしかども、法華經のために命をすてたる事はなし。

『下山御消息』(356頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲載

☆ 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。

一般世間の人々は、死んで成仏(極楽)すると、

人間界の苦勞、苦痛、我慢、ストレスの無い、快適しかない、掃除洗濯炊事をしなくても、時間になれば嫌いなものが無く、好きなものだけの食事が出て来て、常に清潔な環境、衣服が整い、御酒(ビール、日本酒、ワイン、ウイスキー、ブランデー、焼酎等々)も自由に飲み放題、博打もし放題(競馬、競輪、競艇、パチンコ、麻雀等々が有るかどうかはわかりませんが)負けることが無い。一日中温泉が湧いていて、適温の湯ノ花が香る湯に、いつでも入る事が出来、病気もケガも無い、眠くなれば、フカフカの布団が敷かれていて、起きる時間も考えないで、好きなだけ寝て、あくせく生活の為、家族の為に上司や客に文句を言われながら、養育費、生活費、老後の生活費を確保しなければならない為の労働も無く、夫婦、親子、兄弟、家族、親戚縁者、友人等々のストレスも無く、他の仏との関係も、嫌な仏は一人もいない。まさしく極楽に永遠に過ごす事が出来る。それが【成仏の姿】と知っている人達が世の中には沢山いるのだと思います。もし、ここに羅列したような事が現実にあるとしたら、この生活の中に、仏として、一切衆生平等成仏の真実の法を一切衆生に伝え、縁せしめ、衆生を救うという責任は放棄し、自分だけ快樂に満たされれば良いという事になります。死んで成仏したら、仏としての責任、使命は果たさなくて良いということでしょうか? 成仏するとは、永遠の生命を止めて終わりとして、最後に双六の様に上がって終わりという、強欲な自分満足だけの快樂を得られれば良いという事なのではないでしょうか? それでは、一切衆生平等成仏を目的に説かれた八万四千の仏教經典全ての否定、仏自身の否定になってしまうのであります。という事は、多くの人々が抱いている【仏に成る】というイメージは、荒唐無稽、

道理から外れた、虚妄な幻想、西方極樂浄土へ往生するという考え方の発想も同様に、荒唐無稽な嘘、幻想なのであります。

如来神力品第 21（開結 581 p）に、

若しは経巻所住の処、若しは園中に於いても、若しは林中に於いても、若しは樹下に於いても、若しは僧坊に於いても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在っても、若しは山谷曠野にても、是の中に、皆応に塔を起てて供養すべし。所以は何ん。当に知るべし。是の処は即ち是れ道場なり。諸仏此に於いて阿耨多羅三藐三菩提を得、諸仏此に於いて、法輪を転じ、諸仏此に於いて般涅槃したもう。

とあります。かみくだいと言うと、

【南無妙法蓮華経の信心の志を心に抱く人は、園（庭、畑）、林の中、廣大壮麗な建物、山、谷、広大な原野、野原等々どんな場所、どんな時でも、南無妙法蓮華経の志の塔を起てて供養しなさい。理由は、どんな場所でも、どんな時でも、信心の志を心に抱いた場所と時が、南無妙法蓮華経の道場であり、全ての仏が南無妙法蓮華経の悟りを得て成仏した所、時であり、全ての仏が一切の衆生の為に法を説いた場所（靈鷲山、靈山浄土）、時であり、全ての仏が南無妙法蓮華経の心を持って亡くなった場所、時であるからであります。】

これを、もっと簡単に言えば、

信心の心を抱いた、その場、その時が靈山浄土であり、生きて仏死して仏の、生死を越えた永遠常住の成仏の境涯である。その鍵は、南無妙法蓮華経の法を信じて出来るか出来ないかに全てが掛かっている事なのです。

死んで靈鷲山、靈山浄土へ行くのではなく、生きている時も、死んでからも区別無く、信心の志を抱く場所、時が靈鷲山、靈山浄土です。と、示されているのであります。

生命を構成している、地水火風空の五大は、生老病死の人生を終えて、結合が解消され、全ての生命が繋がった大海に溶け込んでいきます。そして又、縁によって大海から新しい地水火風空のつながりを得て、一滴掬われて生まれてきます。つまり、地水火風空は永遠常住で、死滅する事は無いのであります。つまり、死者の黄泉の国や、仏だけが住む、極樂が有るのでなく、星になっているのでもなく、天から見守っているのでもなく、違う世界にいたのでなく、私達の大切な亡くなった人々は、私達と一緒に、地水火風空として今も生きているのであります。だからこそ、常に身近に亡くなった人を感じ、お盆や、お彼岸だけでなく、毎日南無妙法蓮華経の心を忘れず、朝晩御本尊様に向かい、勤行をし、自分の為だけでなく、全ての生命に対して、南無妙法蓮華経の真実の法に縁する為、信心修行を大切にしなければいけないのであります。